

第 20 回教育委員会

平成 30 年 9 月 18 日
午 後 3 時 30 分
本庁舎屋上会議室

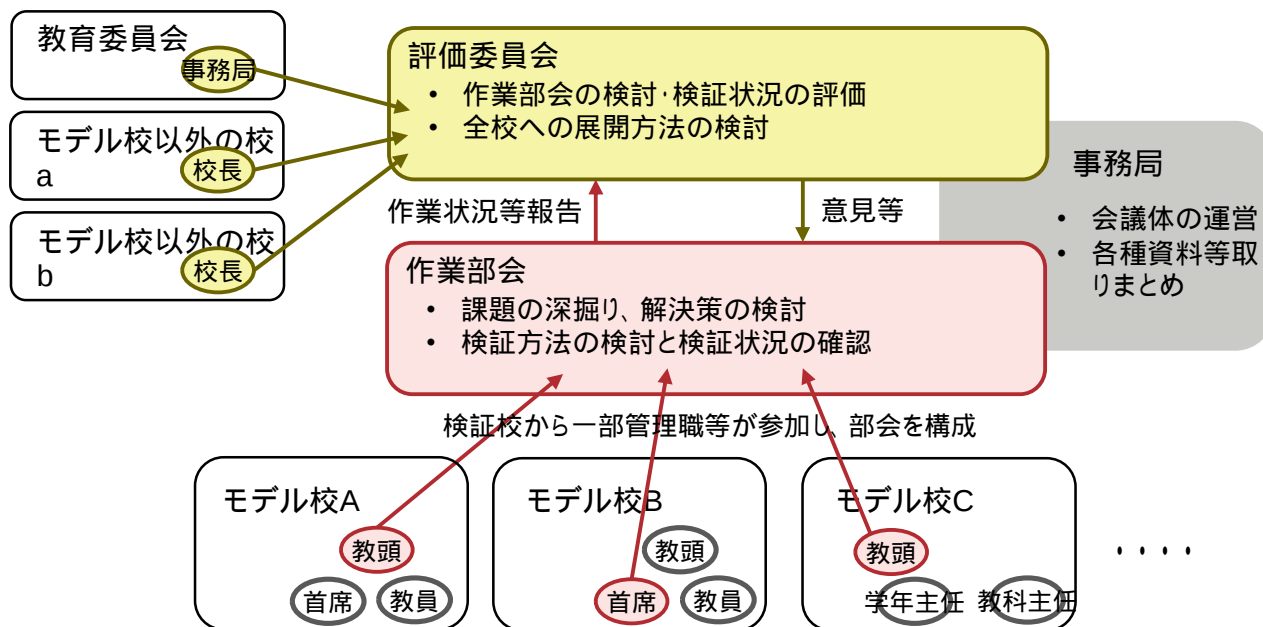
案 件

報告第12号 教員の長時間勤務解消に向けた調査研究について

平成 30 年度 教員の長時間勤務解消に向けた調査研究 中間報告書(抜粋版)

1. 調査研究の進め方

平成 30 年度の調査・研究では、モデル校の代表者が集まる作業部会で業務改善策の検討・検証を行い、モデル校以外の校の代表者が参加する評価委員会において、全校展開に向けた検討等を行います。



2. 調査研究スケジュール

夏休み期間に作業部会によるワークショップ（全４回）を行い、業務改善策の検討を行いました。２学期にモデル校での検証を行い、３学期に全校展開の方法を検討する予定です。

[illegible]

3. 検討を行った業務改善策

作業部会では、実施されている校務と時間外に行う問題点を抽出し、その改善策の検討を行いました。

分類	実現が期待される改善策	昨年度調査研究で指摘された課題との関係
1 単純事務の定型化	◎印刷等の簡易な業務を教員以外が行う仕組み ◎バーコードやQRコードを利用した提出物チェックの実施 ◎事務職員の事務内容の精査	「不明瞭な職務」 「人的リソースの不足」 に対する改善策
2 複数校での事務のまとめ	◎中学校会など地域の学校間の協働 ◎栄養教諭の配置単位の見直し ◎複数の学校単位での事務処理を請け負う仕組みや、学校運営事務の共同実施	「人的リソースの不足」 「業務負担の偏り」 「教材等の自作」 に対する改善策
3 規則・規定の見直し・策定	◎時間単位の代休設定 ◎学校行事の回数や実施の考え方など、教育委員会から指針案を提示 ◎会議におけるルールの設定・遵守 ◎アンケート等の回答期限や回答方法の基準策定 ◎徴収事務の役割分担 ◎実効性を持った時間外勤務の上限規制の導入 ◎徴収金の公会計化 ◎最終時刻の設定と教育委員会からの指針の提示 ◎地域対応に関わる基本的な事項を、市の方針としてアナウンス	「学校行事の負担」 「保護者・地域の無理解」 「会議の量・時間」 「教育委員会からの文書量が多い」 に対する改善策
4 意識の醸成	◎校長等管理職の人事評価の項目に長時間勤務の抑制を設定し、意識付け ◎個々の教員による時間外勤務の実績確認	「管理職の意識」 「教職員の意識」 に対する改善策
5 環境の整備	◎ネットワークや情報連携に関わる要件整理 ◎ICT環境の見直し ◎ソーシャルワーカー、スクールロイヤーの配置見直し ◎印刷物配布基準の見直し	「ICT化・インフラ整備の未徹底」 「不明瞭な職務」 「人的リソースの不足」 に対する改善策

4. 検証する業務改善策

下記3点の検証の他に、「他校における取組状況の紹介」や、一部の業務改善策の実施に向けたヒアリング調査も行う予定です。

モデル校における検証の目的

**実現が期待される改善策について、
「導入時の課題の抽出」と、「期待できる効果の測定」を可能な限り、行う**

事務削減効果と配置人数等の要件整理に向け

**印刷等の簡易な業務を
教員以外が行う仕組み**

- ✓ 教員以外に依頼できる具体的な事務の抽出
- ✓ スクールサポートスタッフの仮導入による事務の実施
- ✓ 実施事務に対する時間削減効果を依頼教員から測定
- ✓ 学校内にスタッフを配置した場合、印刷の制約の解除のみの場合に
分け、効果・課題の違いの把握

意識付けへの有効性の確認と課題の確認に向け

**個々の教員による
時間外勤務の実績確認**

- ✓ 個人の時間外勤務の状況は、個人で把握可能なため、前月の全市の状況や、各校の状況について、全員が確認できる形で掲示
- ✓ 一定時間に達した方への通知などが期待されたが、システム変更等が必要になるため、今回は対象としない
- ✓ 前月度からの時間外勤務時間の変化を前年度と比較し、意識付けによる効果を測定

効果的かつ現実的な基準設定に向け

**アンケート等の回答期限や
回答方法の基準策定**

- ✓ 検証期間内に行われるアンケート調査の種類と対応内容、かかった時間等の実態を把握
- ✓ モデル校の中から、代表校を選定し、アンケート対応の記録を依頼
- ✓ 記録を分析し、解決策となる基準等の概要を検討